

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	重心型放課後等デイサービスサン・フレンズ光の森			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日			2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日			2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 5日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアや身体介護を必要とする利用児に対し職員間で情報共有を行なながら、安全管理に十分配慮した支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用児の体調やリスクについて日々の申し送りを徹底している。</li> <li>医療的ケアに関する手順や留意点を職員間で共有し事故防止に努めている。</li> </ul>	医療的ケアや安全管理に関する情報について、職員間での共有や確認を継続し支援手順の統一や事故防止に向けた取り組みを引き継ぎ行っていく。また、利用児の体調変化に迅速に対応できるよう、日々の振り返りを通じて支援内容の見直しを行っていく。
2	職員間で利用者の状態や支援内容について情報共有を行い統一した支援が提供できる体制を整えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師・児童指導員・機能訓練スタッフ・児発管などが日常的に情報交換を行い、支援方法の統一を図っている。</li> <li>必要に応じて支援会議を実施し、支援内容の見直しを行っている。</li> </ul>	今後も情報共有を継続し、多職種間での意見交換を通じて支援の質の向上を図っていく。ケース会議や日常的な話し合いを活用し、利用時にとって適切な支援が提供できる体制づくりに努めていく。
3	利用時一人一人の心身の状態や発達段階に応じ個別支援計画に基づいた支援を行っている。	日々の関りの中で変化を捉え支援内容に反映させている。	個別支援計画に基づく支援を継続するとともに、利用時の成長や状態の変化に応じて支援内容見直しや工夫を行っていく。日々の関りを通じて得られた気付きを支援に反映し、より個別性を重視した支援の充実を図っていく。
4	少人数での支援を行っており、利用児が安心して過ごせる落ち着いた環境を提供できる。	利用児の状態に応じた無理のない支援を心掛けている。	少人数での支援という特性を生かし、利用児一人一人のペースに配慮したかかわりを継続していく。安心して過ごせる環境を維持できるよう環境面や支援方法について職員間で意見交換を行い、より良い支援環境づくりに努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	重症心身障害児への支援には専門性が求められるため、継続した運営を行うためには人材の確保及び職員の育成が課題	対応可能な人材が限られている	OJTや職員間での知識共有を行い支援スキルの底上げを図る必要がある。
2	業務の都合上外部研修への参加機会が限られる為、研修体制の工夫が必要であると考える。	日常業務が中心となり外部研修への参加時間の確保が難しい状況がある	事業所内での勉強会や情報共有の機会を設けるなど、研修方法の工夫が必要
3	利用時間や利用時の個別の配慮の必要性から活動内容に制限が生じやすく、より多様な活動の提供が課題となっている	医療的配慮や体調管理を優先する必要があり活動内容に制限が生じやすい	屋内活動の工夫や利用児の状態に応じた活動内容の検討を進めて行く必要がある
4	地域交流や外出活動の機会が限られている	利用児の安全面や体調面への配慮から外出や地域交流が難しい状況がある	無理のない形での交流方法について段階的に検討していく必要がある